

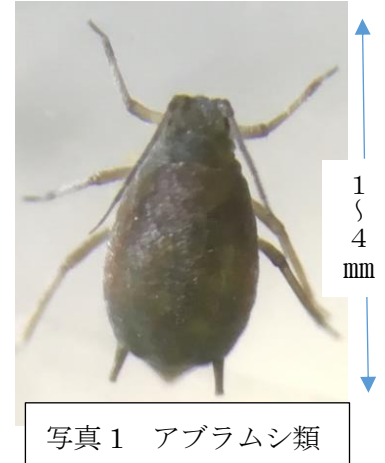
『アブラムシ類の防除』

本年は野菜や果樹で3月下旬頃からアブラムシ類(写真1)の発生が多く見られます。多発すると防除が難しくなるので早期防除に努めてください。

《アブラムシ類による被害の特徴》

アブラムシ類の発生時期は4~11月頃で、はじめ羽のあるメスが植物に寄生し、その後羽の無いメスが生まれ増殖していきます。多くの場合、新芽や柔らかい葉裏に寄生しています。アブラムシ類による被害は①吸汁による生育阻害、②ウイルス病の伝搬、③すす病の誘発などです。

いずれにしても小発生では被害がでる可能性は低いですが窒素過多や雑草の繁茂、乾燥など害虫にとっての好適条件下では爆発的に増えてしまうので初発をみたら速やかに薬剤による防除を行いましょう。



《アブラムシ類とウイルス病の防除ポイント》

- ・種まきや定植時にあらかじめ粒剤を施用し、生育期には希釈散布剤を発生初期から適宜散布してください。※農薬登録要確認
- ・同一系統の薬剤を連用すると効きにくくなるので、異なるIRACの薬剤をローテーションで散布する(表1参考)。
- ・周辺雑草はアブラムシ類だけでなく他の害虫の発生源になるので除草に努める。
- ・ウイルス病(写真2)になった株は治療することができず、放置していればアブラムシ類によって周辺株に伝搬されてしまうので株ごと圃場から除去する。ウイルス病に侵されると、モザイク(葉や花弁に濃淡のふ入りが生ずるもの)・萎縮・黄化・奇形などの症状を示す。
- ・ウイルス病は汁液伝染するので、間引きや、摘心、脇芽かきなどの作業は極力刃物を使用しない。使用する場合は煮沸等で適宜殺菌する。



写真2 ソラマメのウイルス病

表1 アブラムシ類適用農薬の例

農薬名	有効成分名	IRAC	系統
スミチオン(乳)	MEP	1B	有機リン
マラソン(乳)	マラソン		
ジェイエース(溶)、(粒)	アセフェート		
アディオン(乳)	ペルメトリン	3A	ピレスロイド
トレボン(乳)	エトフェンプロックス		
モスピラン(顆溶)、(粒)	アセタミプリド	4A	ネオニコチノイド
ベストガード(溶)、(粒)	ニテンピラム		
スタークル(顆溶)、(粒)	ジノテフラン		
トランスフォーム(F)	スルホキサフロル	4C	スルホキシミン
コルト(顆水)	ピリフルコナゾン	9B	その他合成
ハチハチ(乳)	トルフェンピラド	21A	
ウララ(DF)	フロニカミド	9C	

作物により登録が異なるため、必ずラベル等でご確認ください。